

(様式2)

令和 4 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591200181		
法人名	有限会社 公衛社		
事業所名	グループホーム ふるさと <2ユニット共通>		
所在地	新潟県村上市中原3920番1		
自己評価作成日	令和4年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月11日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・事業所名の『ふるさと』とは、誰でも持っている、大切な人と巡り合った場所であり、心の拠り所となることも多い。 ご利用者様、ご家族様、近所の方、職員など、事業所に関わるすべての人々が、その拠り所となり、活き活きと生きていく源になれるように取り組んでいる。</p> <p>・昨年同様コロナ禍ではあるが、第7波も少しずつ落ち着いてきている状況を鑑み、10月1日から対面での面会、外出、外泊等を再開している。ご利用者様の生活の質を保ち、生きる喜びにつなげていきたい。</p> <p>・社会福祉協議会主催のふれあいフェスティバルに向けて小物制作をしていたが、中止となったため、現在も取引のあるみどりの里へ追加で物販の依頼をする予定。</p> <p>・コロナ禍ではあるが、保育園児が散歩の途中で寄ってくれたり、小学校の田植えや稲刈りに招待してもらったり、地域との交流が継続してある。今後も地域とともにある施設でありたいと思い、活動を検討していきたい。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所内部は太い木材や竹が多く使われ和風の照明や古いタンスが置かれるなど、古民家を想像させるような造りであり、季節の花などが飾られ、どっしりと落ち着いた雰囲気となっている。</p> <p>保育園児や小学校との交流や近所の方が野菜を届けてくれたり畑を耕運機で耕してくれたり、一人で散歩に出る利用者に声をかけてくれたりと地域の方との日常的な自然な付き合いがある。</p> <p>日中は玄関を施錠せず、職員に断って一人で散歩に出かける利用者がいたり、毎日入浴する利用者がいたり、誕生日には希望を聞いて職員とマンツーマンで温泉や食事に出かけたりと利用者の思いや希望をできるだけかなえられるよう努めている。また、利用者には、食事の準備や片付けなどの家事や畑仕事、小物作り等、利用者のできる範囲で役割を担ってもらったり、得意分野を活かしてもらおう心がけ、楽しみや生きがいにつなげている。</p> <p>職員間で話しやすい雰囲気があり、会議や面談、それ以外の場でも職員が意見を出し、必要な場合は会社の上司に伝えられて運営や利用者支援に反映されている。管理者が代わって1年にも満たないが、現在の管理者はこれまでの経験を活かし、職員と話し合い、理解を得ながら新しい実践を次々試みている。</p> <p>今後さらに地域社会との交流が進み、地域に根ざし、利用者、家族の思いに寄り添った支援が深められるものと期待できる事業所である。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員会議やリーダー会議にて共有を図っている。また、日頃のコミュニケーションや業務連絡等でも、『笑顔』あふれる毎日になるように、気持ちよく仕事ができるように、気遣い、心遣いをしている。	事業所の運営理念「笑顔」は開設時に管理者、計画作成担当者を中心に考えたものであり、分かりやすく職員によく浸透している。運営理念は利用者支援等、日々の業務に活かされ、職員会議など会議の場などで振り返られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の田植え、稲刈り活動、保育園児の訪問等の交流をしている。また、一人で散歩に出られるご利用者の見守りをお願いしたり、畑の指導をして頂いたり、野菜を頂いたりすることがある。	事業所前の通りが保育園児の散歩コースになっていたり、小学校の田植えや稲刈りに誘いを受けて子どもたちとの交流がある。事業所の広報紙を回覧板で回してもらったり、地域の方が野菜を届けてくれたり、畑を耕運機で耕してくれたり、また、一人で出かける利用者に声をかけてもらうなど日常的な交流がある。コロナ禍以前は事業所の行事の「ふるさと祭り」に家族や地域の方に来てもらっていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は活動ができていない。認知症カフェについても引継ぎがないため、運営方法等具体的な内容が把握できていない。村上市へ相談するなどして、また一から作り上げていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面決議としているが、コロナの様子をみながら、11月には開催したいと考える。ご利用者様の入退去や事故状況、行事等を報告し、意見を求めている。指摘された部分は早急に改善できるように努めている。	利用者代表、家族代表、地区の区長、民生委員、市の本庁と支所の担当課職員に参加してもらい開催しているが、コロナ禍の現在は書面での開催となっている。利用者、職員の状況や事業所の運営、取り組み等の報告を行い、意見をもらって運営に活かしている。	書面での開催となって意見が出にくい状況である。返信用封筒とともに質問や意見を記載する用紙を同封して送るなど、委員からの声をいただくためのさらなる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話で済む内容であったとしても、村上市役所や朝日支所の担当窓口にはこまめに訪問し、管理者の顔を覚えてもらうようにしている。また、疑問に思う点やわからないところは、すぐ連絡するようになっている。	運営推進会議に市の担当者が参加しており、事業所の状況について理解してもらっている。また、市の本庁や支所に電話や出向くなどして疑問点の確認や相談に乗ってもらったり、日頃から連携を図り協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回委員会にて話し合いを行っている。また、今年度はこれから研修も実施予定。	「身体拘束廃止・虐待防止委員会」があり、2か月に1回研修を行っている。玄関は日中開放されており、職員に声をかけ一人で散歩に出かける利用者もいる。センサーマット使用の際は職員で検討し家族に説明、了解を得ている。使用後も検証を行い最低限の使用にとどめるようにしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回委員会にて話し合いを行っている。また、今年度はこれから研修も実施予定。	委員会があり2か月に1回、話し合いや研修を行っている。また虐待防止に関するマニュアルがあり、虐待や不適切ケアのない利用者支援に努めている。年1回、会社専務が職員と面談を行い悩みや困りごとを聞く機会を設けている。また管理者は年2回の面談を行うほか、職員の様子を見ながら声をかけ、職員がストレスを溜めないよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はおひとり成年後見人制度の手続きを開始している。今後も村上市や地域包括支援センターと連携し、必要な方が制度を利用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は、まずは自分自身が理解しないと説明できないため、熟読し、内容を理解するように努めている。また、改定時も丁寧な説明を行い、不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いた意見や要望は会議にて話し合い、対応を検討している。また、返答が必要な事柄に関しては、いつまでに返答するかも併せてお伝えしている。	家族からは電話や面会などの来訪時、運営推進会議等で意見を聞く機会がある。利用者の日々の希望や意見については申し送りやタブレット等で職員間で共有し、運営や日々の支援に活かしている。また、接遇研修を実施して、利用者・家族が意見を出しやすい対応や雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	9月に代表者代理が職員面談を実施している。管理者は年末までに実施予定。また、比較的自由に意見が言えるような風潮があるため、意見や提案は聞き取りやすい環境にある。	毎月の職員会議やリーダー会議、各ユニットで行われるカンファレンスなどで職員の意見が出されている。また、年1回の専務との面談、年2回の管理者との面談がある他、普段から職員が意見を出しやすい雰囲気があり、出された意見は運営や利用者支援に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況の把握までは難しい状態。管理者が現状を伝えることが多い。長年人員不足で苦勞しているため、新しい職員の確保も大切だが、既存の職員のモチベーションアップにつながるような取り組みが必要。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修の参加や開催については理解があり、多少金額がかさんでも、参加できるように配慮してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームだけではなく、他の介護保険施設等への見学や、1日体験など、交流する機会の場を作る予定。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症があるからといって、ご家族の話しばかりを聞くのではなく、まずはご本人がどのように生活していきたいか、どのような希望があるのかを理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何に一番困っているのか、解決に向けて何ができるのかを相談しながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約のために来苑されても、話を聞いていく上で、グループホームではなく、他の施設あるいは在宅サービスの方がご本人、ご家族の希望を叶えられると感じた時は、そのような提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除、調理などの家事全般については、可能な限り一緒に行って頂き、役割や楽しみが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の住まいがグループホームに変わっただけであり、いままでのご家族との関係や絆に何ら変わりがないこと。ご本人の望む暮らしのために、ご家族の協力が必須であることを、入居時等に説明している。	隔月で広報紙を発行するほか、毎月請求書と共に利用者の写真や様子を書いた文書を送ったり、何かあれば連絡するよう心がけ、家族との情報共有に努めている。また、受診同行や衣類の交換等をお願いするなど、家族と共に本人を支える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であっても、窓越しの面会の継続や、生活に必要な外出(馴染みの美容院等)は行ってきた。	馴染みの人や場所について入居時に利用者、家族に聞いてアセスメントシートに記入している。入居後に得られた情報についてもシートに追記し、日々の支援に活かしている。馴染みの美容院に予約を取って送迎したり、自宅近くをドライブしたり、コロナ禍においても窓越し面会等で交流を継続するなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事のやり方が違ったりすると、時に言い合いになることもあるが、お互いを尊重し、一緒に生活していく仲間のような存在になれるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、不安に思ったことなどはいつでも相談できるような体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションから、ご本人の思いを感じ取れるように努めており、介護計画にも反映させている。	入居時に、利用者・家族から思いや希望を聞いてアセスメントシートに記入し職員間で共有している。その後、日常の会話の中で得られた情報もシートに追記して介護計画に反映させている。誕生日には利用者の希望を聞き、職員とマンツーマンで近くの温泉や食事に出かけるなど、利用者の思いに寄り添う支援を実践している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、親類等から、いままでの暮らしぶりをお聞きしたり、近所に住んでいる友人の方からも情報を頂くこともある。	入居時に、本人、家族、親戚、居宅介護支援専門員等の話を聞いたり、それまで利用していた事業所を訪ねるなどして情報を得てフェイスシートに記録している。それらの情報は職員間で共有し、家事の手伝いや畑仕事を担ってもらったり、ハーモニカの演奏をしてもらうなど、日々の暮らしに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅で忙しく過ごしていた方へは、可能な限り家事を手伝って頂いたり、認知症の進行や身体的な低下がみられる方は、ご本人の状態に合わせた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の何気ない会話の中でも、ご本人の言葉から気づきを深め、それを情報共有し、担当者会議等で話し合う場を設けている。	介護計画の原案は本人、家族の意向を踏まえ計画作成担当者を中心に作り、カンファレンスで職員の意見を得て本人、家族に確認してもらい、意見があれば修正している。短期目標期間(6か月)が経過する前に担当者会議を開催し、計画の検討と見直しを行っている。コロナ禍の現在は、担当者会議は職員のみで行われているが、今後は本人、家族、看護師にも参加してもらう予定である。モニタリングは毎月行い、長期目標は定期的に、または状態の変化があった場合などに随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年から記録アプリを導入し、いつでも記録を簡単に記入、整理できるようにしている。また、申し送り等も記入し、共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため外部活動を中止している状況ではあるが、今後ご本人、ご家族から希望があった場合は、地域の茶の間や他の介護サービスとの連携も検討していきたいと考える。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者それぞれの家族関係や親しい友人等とのぐらいい交流があったかなど、可能な限り情報を収集している。11月にはご利用者、いとこ、義妹、職員で温泉に外出予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診してくれる協力医以外の病院とも連携し、必要な受診や治療ができるようにしている。また、緊急時は協力医にすぐ連絡がとれる体制をとっている。	かかりつけ医は本人、家族の希望により決めてもらっているが、月2回程度往診してくれる事業所の協力医(内科)に変更する利用者が多い。歯科、皮膚科、眼科へは職員が受診同行している。家族が受診同行する場合は家族、事業所、医療機関との情報共有を図り、利用者の状況が伝わるよう配慮している。また、事業所に看護師を配置し、日常的な健康管理や夜間の対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール体制の整備や申し送り等で情報を共有し、ご利用者の安心に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は当日中にサマリーを提出したり、退院が決まった当日にそのまま迎えに来るように指示があっても、対応できるようにしている。また、入院中の様子や今後考えられる経過、注意点などは詳細に聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設での看取りについて説明し、事業所としてできること、できないことをご理解いただいている。	「重度化対応に関する指針」があり、重度化した場合や終末期の対応について入居時に説明している。状態変化があった際は医師の意見を聞きながら家族と相談し対応を確認している。事業所として看取り対応を行っており、看取りに関する職員研修を定期的に行い、利用者、家族が安心して最期を迎えられるよう体制を整えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故は、緊急時の対応として、心肺蘇生等の訓練を行っている。普及員不在のため、今後資格取得もしていく。また、連絡体制の明確化も行っている。	急変や事故発生時のマニュアルが整備され見やすい場所に保管されている。また、AEDの使用方法を含めた心肺蘇生法等の研修を職員全員を対象に定期的に行っている。利用者の情報をまとめた緊急連絡シートを作成し、救急搬送時などにすぐに持参できるよう準備している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は事業所のみで定期的実施している。	日中、夜間の火災や地震、風水害を想定した避難訓練を年2回実施し、消防署員にも来てもらいアドバイスを受けている。利用者にも実際に避難してもらい、地域の保健センターまで避難したこともある。3日分の水、食料の備蓄や懐中電灯、ストーブなどの備品も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護、プライバシーの保護、接遇など、研修を行っているが、毎日の意識付けが必要と実感している。	内部研修として接遇研修を実施し、利用者の人格を尊重しプライベートに配慮した支援を心がけている。同性介助の希望があれば対応し、個人の記録は事務室で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話すことが難しい方でも、想いや希望が理解できるように努めている。また、事業所として対応が難しいことでも、代替え案を提示するなど、可能な限り配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員によっては自分のペースを優先してしまふことがある。起床時間や就寝時間、入浴時間等に決まりはないため、その日のご利用者の希望や体調等で自由にして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服を着たり、季節に合った服を選ぶことが難しい方は、一緒に洋服を選んだり、着こなしや新しい洋服を褒めたりすることで、気持ちよく過ごして頂くように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等、可能な限り一緒に準備して頂いている。また、片づけは、茶碗洗いから米研ぎまで、職員と一緒に毎日行って頂いている。	できる利用者には野菜の皮むきなどの食事作りや片付け、食器洗いなどを職員と一緒にやってもらっている。利用者の好き嫌い等は、入居時の聞き取りや日ごとの様子を見て把握しており、また、ペースト食や刻み食など一人ひとりの状態に合わせた食事を提供している。畑で採れた野菜を使ったり、行事食やおやつ作り、テイクアウトの利用、少人数での外食など、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はいつでもお好みの物をお出しできるように、常時数種類のを準備している。また、糖尿病等の病気がある方は、パルスweet等も準備している。その他、誤嚥のリスクが高い方にはとろみを付けるなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアをする方については、なかなか介入できていない。今年度は歯科衛生士から口腔体操や口腔ケアについての研修をしてもらう予定。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをして入居された方でも、排泄パターンを把握することで、排泄がある前にトイレにお誘いできるように努めている。また、見守りが必要な方にも、プライバシーに配慮して、必要などきだけお手伝いに入るなどしている。	排泄パターンの把握に努め、介護度の高い利用者でも歩ける方は本人の気持ちを大切にしながらできるだけトイレで排泄できるよう声かけなどを行っている。水分補給を促したり、散歩や体操などでスムーズな排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘薬に頼らないように、水分を勧めたり、散歩や体操等で体を動かし、排便を促すようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所では毎日の入浴もちろん可能ではあるが、必ず毎日入らなければならないということではなく、あくまでもお一人おひとりの希望に沿った対応を心掛けている。	入浴回数は特に決めず、週3回以上は入浴できるようにしており、毎日入る利用者もいる。入浴剤を使ったり、ゆず湯などの変わり湯にしたり、一人ひとりお湯を替え、職員とのマンツーマンの時間を楽しんでもらっている。重度化した場合はチェアー浴の準備もあり、同性介助の希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や光に敏感な方もいらっしゃるため、可能な限り遮光や生活音に配慮するなど、その方に合った居室の整備などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の病気と内服薬、その効用については、一覧表を作成し、すぐ把握できるように努めている。また、血圧の薬を内服していても、高い状態が続いているときなど、症状の変化に気が付いたときは、早めに主治医へ連絡をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をしたい方、物販の小物づくりをしたい方、事業所の外の環境整備や修繕をしたい方、ご利用者それぞれの意向や得意分野を把握し、楽しんでできることを提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、いままでは難しい部分もあったが、11月の温泉旅行を皮切りに、泊りを含めた外出やコンサート等、希望をお聞きしながら対応していきたい。	近隣の散歩やドライブ、日用品の買い物などで日常的に外出している。職員が同行せず一人で散歩に出かける利用者もいる。また、個々の利用者の希望を聞きながら少人数やマンツーマンで温泉やコンサート、ドライブなどの外出の機会も作るよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方にはご自分で管理していただいている。また、希望のある方には、事業所として現金をお預かりし、外出先や移動販売で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡や手紙のやり取りなど、希望がある方には必要なお手伝いを行っている。現在は絵手紙を書きたいという方がいらっしゃるため、準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不要なものを置いて躓いたりしないように、常に整理整頓、清潔を心掛けている。また、季節の花を飾ったり、目で見て四季を感じられるような環境整備をしている。	太い木材がふんだんに使われ、格子や竹、和風の照明なども使われて和風の旅館や古民家を想像させるどっしりと落ち着いた造りとなっている。季節の花を飾ったり四季を感じられる空間作りを行っている。また、利用者の生活動線に配慮して家具を配置している。空気清浄器が置かれ、毎日清掃されて清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは座る場所に固執される方が多く、自分の居場所となっているため、新規入居があったときなどは、ご利用者とも相談しながらレイアウトの変更を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家と同じように、落ち着いて自分のペースで気兼ねなく過ごして頂けるように、馴染みの物や使い慣れたものを自宅から持参していただいている。	居室には洗面台、カーテン、エアコンが備え付けられており、ベッドは各自の準備となっている。家具など使い慣れたものを持ち込むよう利用者、家族に伝え、テレビやタンス、テーブル、ミシンや冷蔵庫、位牌や家族の写真など思い思いのものが持ち込まれている。清掃は、できる利用者には手伝わってもらいながら職員が毎日行い、室温も適切に管理されて、その人らしい居心地よい居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人ですることにはなるべくして頂けるように、どこにどのような配慮があれば安全にかつ安心してご本人らしく生活が送れるのか、カンファレンス等で話しを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				